

広川町地域水田農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は、福岡県の南西部に位置し、耳納山系と長峰丘陵に囲まれ、東部地区は標高 50m～400mの山間地帯で、中西部地区は標高 20m～50mの丘陵及び平坦地をなしている。

また、町の中央を広川が貫流し、平地を潤し、肥沃地を形成している。この立地条件を活かし、農業を基幹産業としてその振興に取り組んできた。山間地では、果樹（梨・ブドウ・桃）、茶、花木等が栽培されている。平坦地では、施設園芸（イチゴ・花き等）を中心に水稻が栽培されている。

水田面積は、平成 7 年で 455.5ha あったものが、広川インターの開通等都市化傾向により平成 25 年で 430ha にまでに減少している。

ほ場整備の状況は、昭和 57 年度より事業に取り組み、304ha が完了している。

平成 25 年度の水田の利用状況は、水稻 54%、イチゴ・花き等の園芸作物 16%、果樹 3% などとなっている。水田総面積の約 16%が裏作として、麦等の作付を行っているが、それ以外の水田では、水稻又はイチゴ・花き等の園芸作物の単作となっている。

水稻については、総農家数の約 7 割の農家が作付しているが、小規模経営農家が大半を占めており生産性は極めて低い。

J A 広川ライスセンターが平成 5 年度に完成し、米麦の高品質仕上げはその商品性の向上に寄与しており、良質・良食味米の売れる品種の作付、併せて稲作コスト低減が図られている。

また、土地利用型農業の生産性の向上及び生産コストの低減を図るため、ほ場整備事業実施地区を中心とした米麦の機械共同利用組織、集落営農組織の育成支援をおこなっている。

2 作物ごとの取組方針

町内の約 430ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

一戸当たりの経営規模が小さく生産性も低いため、個別経営の補完組織として農機具の共同利用組織等を位置付け、受委託の作業体系を確立することによりコストの低減及び省力化をめざす。集荷販売については需要に応じた生産を基本として、消費者ニーズに即した多様な流通を促進する。八女地域で選ばれる米づくり、すなわち販売を起点とした水稻の栽培方針（地域の特性を活かした「高品質・良食味で特長ある米」の生産の取り組み、栽培履歴の整備など）を策定し、地産地消の概念を基本に産地の顔がみえる「安全・安心・信頼」の米づくりを行う。

農業生産基盤となる優良農地の確保のため、農業振興地域整備計画に即し、水利の調整や作付体系の団地化といった農村地域の秩序ある土地利用、荒廃農地の解消を図るため利用集積の向上などの積極的な農業構造改善に努める。

（２）非主食用米

ア 米粉用米

需要確保に努め、産地交付金を活用した多収性品種の導入等による収量向上を図るとともに、地域での団地化を進め生産コストの低減を図る。また、担い手に農作業を委託し、効率的な生産を推進する。（作付ほ場の連担化・団地化と合わせた担い手への農作業委託Ｈ２５現状：３ｈａ→ Ｈ２８目標：５ｈａ）

イ WCS 用稲

需要確保に努め、多収性品種の導入等による収量向上を図るとともに、地域での団地化・連担化を進め生産コストの低減を図る。また、産地交付金を活用して、担い手に農作業を委託し、効率的な生産を推進する。（作付ほ場の連担化・団地化と合わせた担い手への農作業委託Ｈ２５現状：１０ｈａ→ Ｈ２８目標：１３ｈａ）

（３）麦、大豆、飼料作物

需要に応じた品質別作付を誘導するとともに、作付面積の拡大を図る。

（４）野菜・花き・花木・果樹・景観形成作物

収益性の高い農業生産の確立により農業所得の向上を図るため、町の基幹作物であるイチゴをはじめ、菊、ガーベラなど施設園芸を中心に産地化をすすめてきた。産地交付金を活用して野菜等への作付支援を行うことにより、今後も産地維持を図る。

また、直売所向け等の少量多品目の野菜についても、産地交付金による作付支援を行いながら今後作付面積の維持・拡大を図る。

（５）不作付地の解消

調整水田等の不作付地は、耕作者、作業委託者を探すことや、作物（家庭菜園を含む）を作付し改善する計画がある。現行の不作付地（４．７ha）について、今後５年後で約５割（２ha）を（１）～（４）の品目への転換を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 26 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	229	225	222
飼料用米	—	—	—
米粉用米（基幹作）	3	3	5
WCS 用稲（基幹作）	10	13	13
加工用米	—	—	—
備蓄米	—	—	—
麦（基幹作）	0.2	0.5	0.5
（二毛作）	56	56	60
大豆	0	0.3	—
飼料作物（基幹作）	2	2	2
（二毛作）	8	11	11
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	87	87	87
野菜	58	58	58
花き・花木	28	28	28
果樹	0.9	0.9	0.9
景観作物	0.4	0.4	0.4

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	米粉用米	団地化・連担化+担 い手への作業委託	イ	実施面積 ha	3	3	5
2	WCS 用稲	団地化・連担化+担 い手への作業委託	イ	実施面積 ha	10	13	13
3	麦	担い手による作付	イ	実施面積 ha	53	53	61

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- | |
|--|
| ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組 |
|--|